

パウロの他の手紙を読むと、大体あいさつの言葉の次は、感謝の言葉、受取人達に対する神様への感謝の言葉だ。しかし、ガラテヤ人への手紙はこういうパターンにあてはまらない上に、いきなり「私は驚いています」と書いてある。パウロが気になっているのは、ガラテヤ人がどのように福音を理解しているかという事だ。パウロが驚かされた事は三つだ。1. 「急に離れる」の「急」。
2. 「キリストの恵みを軽んじている。」こと。3. 「ほかの福音に移って行くこと」。

本物をよく知るようにしましょう。それは、真偽を確認したいとき、大変重要な原則だ。今の世の中には偽者が多いのだ。ニセ福音はガラテヤ人、またパウロの時代のクリスチャンだけへのチャレンジではない。本物の福音をよく知るようにしましょう。そうすると、真偽を区別できる。福音を知りたいならば、聖書にもどらなければいけないのだ。聖書は神様の啓示です。ガラテヤ1:11-12でパウロが強調するのは、福音はイエス・キリストの啓示によるという事だ。福音は、人間によるものではない。人間である誰かから受けたのではなく、誰かから教えられたのでもない。それは、人間の考えや理論や哲学ではない。神様からの啓示だ。啓示とは、神が人間に自己を啓（ひら）き、真理を示すのだ。福音は人の知恵によっては不可能で、神様からの啓示を受けることによってのみ可能であるという事なのだ。

聖書のすべては神様の啓示であり、福音を示している。もし聖書の箇所をひとつだけ使って福音を説明したいなら、ヨハネ3:16「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」はお勧めだ。人間の状況も、神様の人間に対する愛情も、人間が必要な答えも、はっきり教えている。エペソ人への手紙 2:8-9「この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です。行いによるものではありません。だれも誇ることもないためです。」この箇所のとおり、「信仰によって救われる」というのは福音の核心だ。福音は恵みですから、私たちの行為や善行によって得られるものではない。

ある牧師は第一コリント 15:3~5から福音の中心的な内容をまとめ、福音の三要素と呼んだ。それは1. キリストは、私たちの罪のために死なれたこと、2. キリストは葬られたこと、3. キリストは三日目によみがえられたこと、この3つだ。「私があるあなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおり、私たちの罪のために死なれたこと、また、葬られたこと、また、聖書の示すとおり、三日目によみがえられたこと、また、ケパに現れ、それから十二弟子に現れたことです。」

(1コリ 15:3~5)

「4つの法則」というある伝道の資料が、福音の大切な4つのポイントを分かりやすく伝えている。

初めに、見えない、天と地を創造したまことの神について説明する。そこから4つのポイント:

1. **神の愛** 「神は私たちを造り、私たちを愛しています。」
2. **私たちの状態** 「人には罪があり、神との間に深い断絶ができています。そのため、神を知ることができなくなっているのです。」人が神から離れている状態を、聖書では「罪」と呼んでいる。
3. **神からの応答** 「人の「罪」のために、神が用意してくださった解決が、イエス・キリストです。私たちはイエスによって神を知り、神の愛を体験できるようになります。」
 - イエスは私たちの身代わりとして十字架上で死なれました。「しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。」(ローマ5:8)
 - イエスは死からよみがえり、多くの人々が彼を目撃しています。Iコリント15:3-6
 - イエスは神への唯一の道です。「わたし(イエス)が道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。」

(ヨハネ14:6)

4. 私たちの応答 「あなたも、イエス・キリストを受け入れることによって、神を知り神の愛を体験することができるようになります。」 ローマ 10 : 9-10

信じるというのは3つのことを含んでいる。知識、すなわち真理とその本質の認知だ。同意、信仰の対象が真実であるという納得だ。信頼、意志の決断によって、十字架の御業を完全に信頼しより頼む。信仰とは、単なる同意や単なる信用ではなく、福音の中に表されている真理を知的に認知し、それを信頼することだ。

信仰は救いの唯一の条件です。「救いには無限の深さがあるが、人間の責任に関するかぎり、キリストを救い主と信じるだけで与えられるという事実ほど重要な意味をもつ事柄、また弁護されねばならない事柄はほかにない。そのただ一つの条件に他の条件を追加すると、聖書の教えている恵みによる救いの重要な教理を破壊することになる。」「信仰とは、なにかを受け取ることであって、何かすること、あるいは何かの状況ではない。聖書の中心、またキリスト教の中心は、神の恵みであり、信仰のみによる救いである。」「私たちは神の恵みによって救われる」ということが教えられていることがわかります。律法や戒めを守らなければならないなどという条件は付いていません。ハバクク 2:4「正しい人はその信仰によって生きる」神の前に正しいと認められるのは、信仰によるのだ。「救いは、行いによるのではなく信仰による」ということだ。

ガラテヤ書の背景は、ガラテヤ教会の状況が間違っただけに従って、ただ恵みによる福音から、行為や行動や状況により救われるというニセ福音に移ろうとしている。彼らは「人が救われるのはイエス・キリストを信じる信仰による、それはその通りですよ。しかし、信仰によって救われた生活をきちんと続けるためには、神の選民であるユダヤ人のように割礼を受け、安息日を守るようにしなければなりません」と教える。「救いは神の恵みによって与えられるけれど、救われた状態を継続するためには行いが必要だ」となってしまう。パウロが2回続けて「そのような者はのろわれるべきです」といった。パウロがはっきり語ったのは、行いによる救いは福音ではない。その何々をしなければならぬという彼らの考えが、キリストの恵みによって自分たちを召してくださった福音を破壊する。

ガラテヤ 1:10、パウロが語っている事がちょっと変わったと感じる。:10-12の中心は、パウロが頂いた啓示はイエス・キリストの啓示ということだ。人々を喜ばせようと努めているのでしょうか、人間によるものではありませんとか、人間から受けたのではなくなど、パウロは繰り返して何回も強調した。ガラテヤ人は彼の福音についての教えは神様からのものではないと疑っているので、パウロはそういう疑いに答える。OMFの国際主事がよく強調したのは、説教者が言う事を聞きながら聖書をひらいて、自分がその聖書箇所を読んで確認してください。ただ私がそう言ったから信じる、という事をやめてください。聖書にそう書いてあるので信じる。確かに誰かの教えによってではない、自ら聖書から神様の御心を理解する。私たちの信仰の土台は聖書しかない。

その後、パウロが証した。パウロの証しの中には二つ驚かされる事がある。1. 激しく神の教会を迫害する人から、熱心に異邦人の間に御子の福音を伝える人になった。2. 信仰をしっかりと掴み、全霊をもって奉仕や伝道をし、その全てを委ねている姿は大勢のクリスチャンに励ましを与え、神様の素晴らしさを現している。パウロは意識的に15節のところで、恵みをもって召してくださった神という言葉を使う。それは、ガラテヤ人がキリストの恵みによって自分たちを召してくださった方から、このように急に離れるということと大きな対比がある。恵みによって招かれ、福音をいただいたのに、あるガラテヤ人は本当の福音から去っていった。パウロの証しをみると、色々なチャレンジにあっても長い間忍耐して、奉仕や伝道を続けている。私たちはパウロのようにその大切な恵みをしっかりと掴んで、大変なチャレンジにあっても諦めず続けて奉仕や伝道をしましょう。ガラテヤ人のように、他の人間的な教えや、この世の色々な価値観に従ってしまい、キリストの恵みを忘れてしまうことしないようにしましょう。互いに覚えて祈り合いましょう。